

縄文人を偲んで貝塚から坂月川ビオトープへ

手塚道子（千葉市）

日 時：2019 年 9 月 28 日（土） 9～12 時 天候：晴れ時々曇り

場 所：加曽利貝塚縄文遺跡公園

参加者：27 名（大人 24 名 子ども 3 名）

担当指導員：江澤幸子、松本美千代、遠藤登志子、松本敏子、山下美佐子、手塚道子

今回の観察会は、16 日の未明に千葉県を直撃した大型台風 15 号の影響で開催が非常に心配される中で行われました。激しい強風に見舞われ、千葉市でも想像以上にひどい状況となりました。暴風による建物や多くの公園での倒木、落枝の被害が続出し、立ち入ることが出来なくなりました。ここ貝塚公園でも、クヌギ、コナラ、イヌシデが無残にへし折られ、サクラは根こそぎ倒され、クリの木なども大きく枝を落としました。南貝塚の草原にも多くの茶色に変色した落枝が点在し、自然の会のメンバーも微力ながら枝をかき集め、観察会が安全に行われるよう協力いたしました。当日の観察通路やその周辺を中心に見廻り、倒れてのしかかかったススキなどを起こすと、幸いなことにナンバンギセル・タチフウロ・ヤマハッカ・シラヤマギク・ヒヨドリバナ・ノハラアザミなどが次々に出現し、何とか当日までその姿を保って欲しいと願いました。

ヤマハギやオミナエシ、ナンテンハギなどもなんとか持ちこたえ、当日には参加者の方が、私たちも見落していたマヤランまで発見。子どもを連れて参加の若いお母様方は、しきりにスマホで写真を撮り きれいだと喜んでおられました。私たちもホッとした瞬間です。子どもたちはもっぱら草原を飛びまわるヒナバッタやエンマコオロギ、ヒカゲチョウやキタキチョウ、あちこちで見られたナガコガネグモ、その他多くのチョウや昆虫たちに夢中でした。ヒガンバナは特に咲き始めで美しい姿です。ヤハズソウの葉の先を引っ張って見て下さいというと、きれいに「く」の字型になったことに驚き、弓矢の「矢筈」に名前の由来があることを納得された様子。

貝塚の観察を終えてビオトープへ向かい、会長の勝又さんからその概要についてお話を伺いました。2 班に分かれ狭い通路をゆっくり 1 周し、ツリフネソウ・アカバナ・ユウガギク・ミゾソバなどを見ながらフジバカマの辺りでいつもならオニヤンマが見られるんですよとお話を聞いていると、早速 2 頭のオニヤンマが現れました。その他にもツマグロヒョウモンの雌雄やカワセミ、最後にはカヤネズミの巣までも見ることができました。このビオトープの豊かな自然に触れることができ、参加者の皆様にも喜んでいただけたのではないのでしょうか。



草原植生



ビオトープ